

## 行政区長懇談会（赤石会場）要約版

令和5年7月8日

### 1 開会

### 2 町長挨拶（要約）

行政区長の皆様には、休みの日にも関わらず多くの方にご出席いただいたこと並びに日頃より刊行物の配布についてご協力をいただいていることについて、御礼を申し上げます。

各地区において住民から色々な相談や事案を持ち込まれていると思うが、その点も含めて忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

### 3 町からの情報提供

- ・行政区長の委嘱について
- ・各種推薦の依頼について
- ・まちづくり計画アンケートの実施（まちづくり座談会資料3ページ、都市計画課より）

### 4 懇談

<行政区長> 事前提言

- ①マイナンバーカードについて、全国的に誤入力が多発している。紫波町では同様の事象は発生していないか。  
以前に病院で健康保険証代わりにマイナンバーカードを利用した際に、3割負担ではなく2割負担で医療費を請求されたのは誤りではないか。
- ②地区内での住宅開発が増えている。防犯のためにも街灯の設置が必要と考えるが、開発事業者によっては「街灯をどこに設置するかは、住宅が完成してみないと判断できない」という回答をする。開発許可申請の図面を活用することで事前に設置数を検討することができるのではないか。
- ③区長宛に避難行動要支援者登録名簿の送付があったが、何のために発行し、どのように活用するためのものか説明が欲しい。どのような方が対象になっているか、その方に対して避難時には区長としてどのような行動を求めているのか。また、作成に当たり民生委員の方の負担となっていないか。

(内城町民課長)

- ①マイナンバーの個人情報登録は原則本人にお願いしているため、現時点で全国的に報道されているような事例は確認されていない。  
医療費負担割合の相違の件については、後日内容を確認し、回答させていただく。

(齊藤土木課長)

②電柱の位置や区画の住宅の位置などにも関連して、開発区域が大規模になるほど不確定要素が増え、設置タイミングが遅くなる傾向にあると考えている。

設置場所や頭数については、開発事業者と地区住民で話し合いの上、決めていただくこととしており、ご意見をいただいたとおりなるべく早く設置が完了するよう、町として事業者に指導してまいりたい。

(熊谷消防防災課長)

③避難行動要支援者名簿は、災害時に支援を必要とする者の支援活動のために作成し、民生委員、行政区長、消防団、自主防災組織、消防署、社会福祉協議会に配布しているものである。行政区長の皆様には社会福祉に関することとして、災害があった場合に、支援する関係者の一員として、支援が必要なご家庭の安否確認あるいは地域の被災状況などを防災機関や町に情報提供していただくといった役割を担っていただくことを想定していた。ただし、令和3年度以降行政区長が私人となったことで、期待される役割の見直しを行っていく必要があると考えているが、引き続き防災に係るご協力をお願いしたい。

(中田生活部長)

③避難行動用支援者名簿に登録されている対象者は全員が75歳以上である世帯、介護度が一定以上高い者、その他災害時に避難の支援が必要な者となっている。

ご提言のとおり名簿の作成時には民生委員の方に中心的な役割を果たしていただいているのは事実である。引き続き、町の保健師や地域包括支援センター、民間の介護福祉関係者にもご協力いただきながら名簿登録や個別避難計画の作成を進めてまいりたい。

名簿の様式についても、随時分かりやすい様式に整えてまいりたい。

<行政区長>

①令和3年度に地域コミュニティに関するアンケートがあったが、自治公民館単位で考えられている傾向にあると感じる。赤石地区の現状は新しい住民が増えてきており、2軒3軒先の住民の顔が分からないといった事象が発生している。自治公民館単位よりも小さいコミュニティのあり方が求められているのではないかと感じる。

②広報紙紫波ネットについて、文字を大きくしてほしいという要望があったが、用紙を大きくしてほしいという要望はなかった。配布が大変なので改めて考えていただきたい。

③赤石地区の人口が増えてきていることで、小学校が児童を抱えきれなくなっていると感じる。町として、これからの紫波町を支える子ども達をどのように育てていくべきかと考えているか見解を伺いたい。

④パブリックコメントの内容について窓口相談に行った際、「他課の資料を用いているので詳しい内容が分からない」といった回答をされる場合がある。担当課すべてで情報が共有されている町の体制を求める。

⑤「みくまるっと脱炭素化モデル事業」の意味と内容について伺いたい。

(小川企画課長)

①ご意見のとおり、隣同士の顔が見える小さいコミュニティが理想の形であると思う。コミュニティを作るためにはお互いの声掛けや話し合いが大切になってくるが、生活スタイルの違いで顔を合わせる機会がないことを課題に感じる人は多いと思う。町として顔を合わせる場の提供や、コーディネーター・ファシリテーターを派遣して場の雰囲気づくりの支援をしていきたいと考えているので、求める地域があればご相談いただきたい。

②毎月広報誌の配布にご協力いただき、改めてお礼申し上げます。令和3年度から現在のタブロイド判になり、配布が大変というご意見は確かに頂戴している。昨年度からは二つ折りにした状態でお届けするようにしているが、赤石のように世帯数が多い地区では厚さが増してしまうという課題も把握している。急な様式変更は難しいが、ご意見を伺いながら引き続き検討していくので、ご負担であると思うが引き続きご協力をお願いしたい。

(侘美教育長)

③赤石小学校については、庁内に検討委員会を立ち上げており、方向性はまだ決まっていないが、児童が増えクラスを増やさなくいけなくなった場合にも対応できるか検討している段階である。職員数もそれに合わせて増員予定である。小中一貫あるいは地域のみinnで育ち合う開かれた学校という理念や方向性は変わらないので、新しい住民も巻き込んで子ども達を育てていければと考えている。

(山上総務課長)

④職員の窓口対応については研修等で指導しているところだが、粗末な対応であり、誠に申し訳ない。担当に繋ぐ、確認して後ほど説明するといった方法があったのではないかと思います。そういった点を徹底し、温かみのある対応を心がけていきたい。

(松村地球温暖化対策課長)

⑤水分神社を「みくまり」神社と呼ぶことから、水分地区を丸ごとという意味の造語で「みくまるっと」と名付けている。この水分地区と志和の新山地区が脱炭素先行地域となって国の補助事業を進めていくものである。

<行政区長>

近所の公園を囲むネットが壊れていたり、遊具が劣化したりしてきているので、点検をお願いしたい。

(齊藤土木課長)

遊具については、専門業者に依頼して毎年1回点検を実施し、職員も随時見回りを行っているところである。フェンスの改修については、なかなか手が回っていない状況だが、危険な状態であれば対応させていただくので、情報提供をお願いしたい。

## 5 町長総括

赤石小学校については、町としても教室を増やさなければならない状況であるにとらえている。規模感は教育長の回答のとおりであるが、少なくとも児童を受け入れることができないという状況が起こらないように対応していきたい。

赤石地区は急速に人口が増えている地区であるが、転入してくる人々は町に魅力を感じてくれているということだと思う。子育てをしている方も多く、子供会や母親の会などの繋がりからコミュニティを広げていただき、紫波町に来てよかったと言ってもらえるよう地域の皆様にもご協力いただきたい。

公園については、土木課長の回答のとおりであるが、生命に関わることはすぐに対応しなければならないので、ご連絡をいただきたい。

学校を含め大きく予算を要するところは、財政的な準備を整えながら取り組んでいく。

赤石地区は一番開発が進んでおり、それによって対応が迫られる部分があると思うが、町の連携体制も強化していくので、引き続き行政区長の皆様のご協力をお願いしたい。

本日は様々なご意見をいただけたことに感謝申し上げます。